

# 1 聞こえの障害がことばの発達に与える影響

筆者は、40年あまり大学病院や総合病院などの臨床現場で言語聴覚士として仕事をしてきた。その中で一番感じているのは、人がことばを獲得する際に、耳の聞こえはその障害の程度と関係なく、子どものことばの発達に大きな影響を与えるということである。

図1は、言語聴覚士を育てる大学や専門学校で、言語聴覚士の仕事の領域を新入生などに説明する際によく用いられる<sup>1)</sup>。人と人とのコミュニケーション場面では、話し手がことば（音）を発すると、それが聞き手の耳に入り、ことばの情報が脳に達する。脳内でその情報が分析・解釈（ことばの理解）される。聞き手が話し手の質問に答える場面を想定すると、脳内で答えを考え、実際に音にして、ことばを発するという過程が進み、構音（発音）をつくるための運動神経、声帯、舌、軟口蓋（通称“のどちんこ”などと言われる）などの末梢器官に情報が伝達され、協調しながら話しことばを表出する。この一連の流れがことばの鎖（speech chain）と言われる（図1）。これは話しことばの例であるが、文字の読み書きにおいても脳内のさまざまな経路を經由して、子どもたちは文字を理解し、書字ができるようになる。

これらの過程のどこかに異常が生じた場合に、人はコミュニケーション障害を生じる。耳（ことばを聴取するところ）の聞こえが悪いと、脳にきちんとことばがたどりつかないので、結局ことばの理解が育たない。理解が不十分になるだけでなく、発話内容も発音もうまくいなくなる。生まれつき重度の聞こえの障害がある場合はもちろん、たとえ軽度であっても、一側性の難聴であっても、小児期に聞こえの障害が起きると、ことばの理解や表出に問題が生じる。聞こえの問題は発声（声が不安定）、構音（発音が不明瞭）、ことばの発達が遅れるだけでなく、性格や社会性など成長の過程で育つ人として大切な領域にも影響を及ぼすと言われる（図2）。

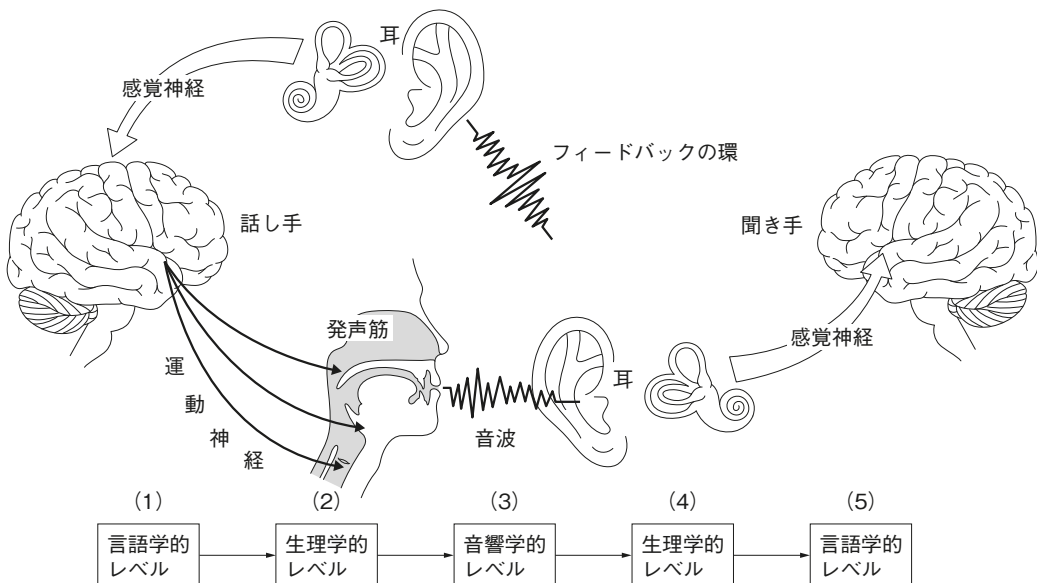


図1 ことばの鎖（文献1）

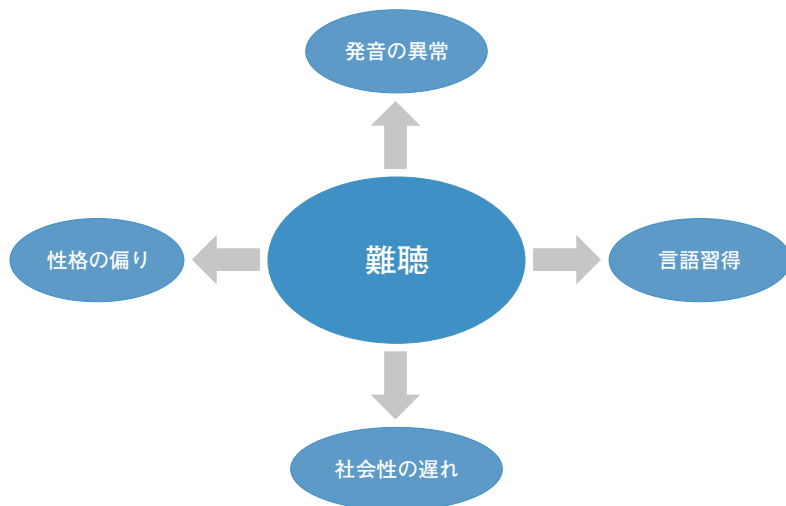


図2 小児期の難聴が子どもの言語発達に与える影響

## 2 子どものことばの発達に影響を与える因子

聞こえの問題以外にも子どものことばの発達に影響を与えるものを表1にまとめた。ことばの遅れの原因については、多くの報告がある<sup>2-5)</sup>が、子ども自身は何らかの問題を持つ場合、周囲の環境による場合、その両方に問題がある場合と分けて説明される傾向にあるので、本書でも同様に整理した。

### 1 A (子ども自身に何らかの問題がある場合)

Aは、子ども自身に何らかの問題があり、ことばの発達に支障をきたす場合である。

ことばを理解するためには、先に述べた耳の聞こえ以外にも重要な因子がある。

物の意味、物と物との関係などを理解していく力が必要である。その土台となるものが知的発達であるので、知的発達障害があるとことばの発達が遅れる。

話すためだけの専用の器官が人間には備わっていないので、発声発語器官に生まれつき障害があると、発声や発語の発達に支障をきたす。人は、食べ物を食べたり、飲んだり、かみ砕いたり、吸ったり、吹いたりする発声発語器官（口唇、舌、喉、口蓋など）を使って発話をしている。発声発語器官の形態が生まれつきうまく整っていない、機能が不十分、運動神経の伝達がうまくいかなくて思うように動かせないなど、いろいろな原因がある。医学的には、脳性麻痺、口唇口蓋裂、軟口蓋短小症、口蓋裂児と類似した症状を示す22q11.2欠失症候群（CATCH22）などと呼ばれる疾患である。

口蓋裂では、耳管機能不全から滲出性中耳炎になりやすい。したがって、口唇口蓋裂の場合には発声発語器官の問題と滲出性中耳炎による難聴の両方の問題がことばの発達に影響すると考えないとけない。

また、人とのコミュニケーションが苦手な自閉スペクトラム症（ASD）もことばの発達が遅

# I

## 0歳代の言語指導

### 1 難聴児の言語能力

難聴児者の言語力について、その潜在能力は高いが、話しことばや読み書きの遅れがあると現在も指摘されている。最近では難聴児にも1歳代から人工内耳装用が一般的に普及してきたせいか、発話が可能な難聴児が増えた感がある。しかし、人工内耳装用児においても日本語の習得は不十分であると言われている。したがって、言語聴覚士に求められるのは、担当した難聴児に、正しい日本語を獲得できるような訓練・指導技術を身につけていることが求められている。言語聴覚士は難聴児に単に聞こえを提供する役割ではなく、日本語の力を習得させることが使命である。単に単語数を増やすだけでなく、日本語の文章の読み書き能力を身につけることができるように指導する役目を担っている。

筆者らが実践している「金沢方式」という訓練法が、従来の手話法、聴覚口話法、聴覚法などと一番違う点は、早期からの文字言語の利用である。他の方法でも幼児期後期には文字利用がなされることが多いが、それは仮名文字をヒントに音韻に気づかせる時の手段ではないかと考える。しかし、金沢方式で用いる文字は、難聴児に不足しがちな意味理解語彙数を補うものとして利用する点で従来の方法と決定的に異なる。

難聴児の言語力の問題のうちSteinbergら<sup>1)</sup>は、助詞の穴埋め問題をろう学校高等部の学生に実施し、高等部の学生であっても正答率が50%台であったこと、一方、同じ問題を健聴児4年生に実施したところ、90%以上の正答率であったと報告している。その後、高岡ら<sup>2)</sup>は、難聴学級児童を対象に助詞の調査を行い、学童になっても格助詞の使用を誤ることを指摘している。

それでは健聴児は一体幼児期にどれだけ助詞が理解し使用できるのだろうか。表1のように格助詞以外に、副助詞（ずつ、とも、ぐらい など）や接続助詞（て、たら、てもなど）などの助詞が出現して、多様な言い回しを習得していく（表1）。これらの助詞を使用することで、子どもの意思、感情などが表出されるので、これらの助詞の習得は、子ども自身のコミュニケーション力にもおおに関係がある。

表1 健聴幼児の助詞（文献3）

#### 3歳代までに健聴児が理解可能な助詞

- 格助詞（が、を、の、と、は、に、へ、で、から、まで）
- 副助詞（か、ずつ、とも、ぐらい、なんか、なら、ばかり、だけ、では、だか）
- 接続助詞（て、たら、から（理由）、ても、ては、のに、けど、なきゃ、と（経過）、し、が（逆説）、ので、だって、ば）

「が、の、を」などの格助詞について藤田と藤友<sup>4)</sup>によると、格助詞は機能語の中でも比較的早期から発話に現れるので、文の発達において重要な位置を占めると指摘している。

構文について我妻の報告では、授受構文（あげる・もらう）の理解ではろう学校の制度は6年生になっても正答率は60%台である。普通小学校で学修している健聴児ではすでに5年生で100%に近い成績となっている構文である。自験例の難聴児では、2, 3歳児でも「あげる」「もらう」などの表出がジェスチャーでみられるので、難聴児にも十分これらの構文を訓練できると言える。

ALADJINの報告<sup>5)</sup>による構文理解（2012年）では、難聴児群は健聴児に比し習得がかなり遅れるものとされている。諸外国においても同様の傾向を示す報告が多い<sup>6,7)</sup>。

## 2 新生児聴覚スクリーニングシステム

現在では生後数日で新生児聴覚スクリーニングシステムによって、ささやき声程度の強さの音に対する反応の有無がわかるようになった。このことは耳鼻咽喉科医師や言語聴覚士、ろう教育に関わる特別支援学校教員にとって長年の悲願であった。その理由は、数十年前には高度難聴、ろうといわれる重度の難聴を持つ子どもでも3歳頃に発見されるのは珍しくなかった。なんとなくことばが遅いなあと思いつつも、親もどうして良いか分からず、幼稚園などの集団生活に入れていたことも珍しくなかった。したがって、わが子が難聴と診断された後には、親はこれまで自分たちが子の障害に気づかなかったという申し訳なさが強く、難聴に対する訓練指導は家族一丸となって行われることも珍しくなく、結果として訓練が順調に進む例もみられた。

現在は多くの子どもが生後3カ月ぐらいいまでは難聴の精密検査ができるようになったから、さぞかし訓練は順調に進むものと多くの人は思うだろう。しかし、現実はそのようではない。生まれたての新生児が難聴疑いとされ、精密機関で診断してもらうために紹介状を持たされ、親が地域の中核病院や大学病院を受診する。わが子が難聴と診断された頃の親たちの気持ちを以前お聞きしたことがあったが、「もう自分の人生は終わった」「世の中が真っ暗になった」「もう生きる意味がなくなった」などと話す親もおり、親たちには大きくストレスがのし掛かっていることが分かる。そのような気持ちの親に対して外来で補聴器の説明をしても、家庭での関わり方を話しても、親は上の空である。したがって、言語聴覚士はそんな気持ちを抱えている親の気持ちを見逃さず、しっかり受け止めながら0歳代の難聴児の訓練指導を行わなければならないことを肝に銘じてほしい。言語聴覚士が親の気持ちを受け止め、その気持ちを共有することによって、難聴児の訓練の可能性を伝えてほしい。そうすると、多くの親は立ち直り、わが子の訓練に向かえるようになる。

難聴の早期発見・早期指導開始は難聴児自身に多くの恩恵をもたらすので、辛い思いをしながらも親が言語聴覚士の指導を受け入れると、0歳代での子どもの伸びはとても大きい。

# Ⅲ

## 5歳代の言語指導

応用期は、学習言語準備期であり、これまでのまとめでもあることから、課題は1つの項目だけには分類できない。なお、金沢方式では、萌芽期から生活内で文字言語を用いている（詳細は次節）ため、この時期に入る前の段階から、実物と文字カードのマッチングや、文章と4コマ漫画のマッチング、文字カードを自ら用いた発信などが可能となっている。そのため、応用期の課題は、萌芽期、基礎固め期における文字言語の土台ができていることを前提としている。

### 1 応用期（学習言語準備期）の発話例

下記に示す発話例は、表2の応用期（101ページ）に示しているが、複数の下位項目に関する要素を含んでいることがわかる。自発話では、さらに長い文章のものも観察されているが、この時期には、相手に伝わるように要点をまとめて話すことができるようになってきているため、全体として一文の文節数は、短いものも少なくない。

- まずいとは言っていないぞ、口に合わない。（形容詞，慣用句）
- この靴下，女の子っぽく見える。（体言＋接尾＝形容詞）
- 今，外が明るいののに，月が見えているのはなぜ？（助詞，可能，疑問）
- 3人で座ったら，どう？（助詞，疑問）
- 今は昔より，だんだん字幕が増えて，良くなってきた。（比較，副詞，助動詞）
- 4月に入ったばかりは，なかなか覚えられない。（助詞，副詞）
- 小さいのに，800円もするのは，高いなあと思ったから。（助詞，助詞，助詞）
- パパはコンタクトをつけなければならんぐらい目が悪いんやね。（副詞，比較）
- ○○（犬）は，はじめは机の上に登れなかったけど僕とお姉ちゃんが遊んであげたら，登れるようになった。（可能，助詞）
- 速くても，赤信号は止まれる。（助詞，可能）
- 僕は走るのが速くなったけど，○○（犬）は僕より速い。（助詞，比較）
- 幼稚園も行きたいけど，東京の方がもっと行きたいから，東京へ行く。（助詞，比較）
- まぜてって言ったら，邪魔って言われて，まぜてもらえなかった。（助詞，受動，授受）
- 4歳のお誕生日に何をくれるの？（疑問，授受）
- もう食べさせてもらわないで，自分で食べられる。（使役，可能）
- ○○が履いている迷彩の長靴は，昔，俺が履いていたやつか？（関係節，時制）
- 僕は，桜の花が咲いた時に生まれた。（関係節，時制）
- 僕の靴洗ってくれてありがとう。ママは僕に何して欲しい？（授受，関係節）

## 2 言語課題：応用期（学習言語準備期）

この時期には、生活内で、社会事象に関して（例として、職業のこと、世の中で流行っていること、水道や電気のこと、住んでいる街のこと、など）も、興味が向くように家族で話題にすることを勧める。具体的には、職業体験ができる機会などがあれば、それに向けてさまざまな職業を自ら調べることが楽しみにつながる。また、水道点検などで断水になる時間を知らせておき、水道局の人は何を調べているのか、なぜ、断水になるのか、などを考えることもおもしろい。さらに、自分の住んでいる町のパン屋さんにあるパンの中で、一番好きなパンは何か、家族は何が好きなのか、パン屋さんはいつも何時に起きているのか、家族やパン屋さんに調査することにより、自分の街に興味を持てる。

これらの経験から、これまでの生活圏より広範囲の世界に目を向け、さまざまなことに自ら興味を持ち、調べ、考え、創造できるようになるための、道筋をつけておきたい。

応用期の課題に重要なキーワードとして、「文脈に依存しない言語運用」「状況把握」「他者の内的状態」「言語的統合」などが考えられる。これらを踏まえた上で、文字言語を用いた課題の1例を示す。

### 1. 文末選択

- |                 |          |
|-----------------|----------|
| ① 昨日、郵便局で切手を    | • 買うでしょう |
|                 | • 買った    |
|                 | • 買う     |
| ② たぶん、明日は雨      | • にちがいない |
|                 | • らしい    |
|                 | • かもしれない |
| ③ メイちゃんは、決してうそを | • つく     |
|                 | • つかない   |
|                 | • ついた    |
| ④ 飛行機は、まだ空港に    | • 着いている  |
|                 | • 着くでしょう |
|                 | • 着かない   |

### 2. 同意義選択

- |              |               |
|--------------|---------------|
| ① 魚みたいに泳ぐ    | • 泳ぎが下手       |
|              | • 泳げるようになってきた |
|              | • 泳ぎが得意       |
| ② 太陽のような性格だ  | • 明るい人        |
|              | • 昇ったり沈んだりする人 |
|              | • 熱い人         |
| ③ 今にも雨が降りそうだ | • 今、雨が降っている   |